

「マイナビ 2024年卒大学生インターンシップ・就職活動準備実態調査(9月)」を発表 9月時点でインターンシップ・ワンデー仕事体験に参加したことがある割合は84.7% 半数以上の学生が、「参加にあたっての準備が足りないと感じた」と回答

株式会社マイナビ（本社：東京都千代田区、代表取締役 社長執行役員：土屋芳明）は、2024年3月卒業予定の全国の大学3年生、大学院1年生（2,789名）を対象に実施した、「マイナビ 2024年卒大学生インターンシップ・就職活動準備実態調査（9月）」の結果を発表しました。

《TOPICS》

- ◆ 9月時点でインターンシップ・ワンデー仕事体験に参加したことがある割合は前年比 1.6pt 増の 84.7%【図 1】
- ◆ 初めて参加した時期は「2022年8月」が最多。参加時期について「適切なタイミングで参加できた」と感じている割合は 58.1%【図 2、3】
- ◆ 9月までに参加した際の準備状況は「活動に困るほどではなかったが事前の準備が足りないと感じた」が最多で 49.1%。準備が足りていないと感じた学生の合計は 55.3%で半数を超える【図 4、5】
- ◆ 授業のある10～12月のインターンシップ・ワンデー仕事体験について「時間はないが、参加意欲はある」と回答した学生は前年比 3.9pt 増の 35.1%で最多【図 6】

【調査概要】

24年卒学生の9月時点でのインターンシップ・ワンデー仕事体験への累計参加率は、前年比 1.6pt 増の 84.7%で、すでに前年の12～1月と近い水準となっている。【図 1】

初めて参加した時期は「2022年8月」が 36.2%で最多となった。また、参加時期について、「適切なタイミングで参加できた」が最多で 58.1%、次いで「もっと早く参加すればよかった」が 32.3%だった。夏季休暇での参加が浸透している様子がうかがえる。【図 2、3】

9月までにインターンシップ・ワンデー仕事体験に参加した学生に準備状況を聞いたところ、「活動に困るほどではなかったが事前の準備が足りないと感じた」が最多で 49.1%だった。「まったく事前の準備が足りておらず、内容についていくのに苦労した（6.2%）」と回答した割合とあわせると、準備が足りないと感じた学生は 55.3%で半数以上だったことがわかる。理由として「専門用語や企業独自の仕組みなど知っておけばより活動の質が上がった」などの回答があり、インターンシップ・ワンデー仕事体験をより良いものにするために、詳細な情報収集が重要だと感じたようだ。【図 4、5】

多くの大学で授業期間にあたる10～12月だが、時間的余裕があるか、インターンシップ・ワンデー仕事体験への参加意欲はあるか聞いたところ、「時間はないが、参加意欲はある」と答えた学生が最多の 35.1%で、前年よりも 3.9pt 増加した。コロナ禍はまだ収束していないが対面授業に切り替える大学も増えており※、学校から企業への移動時間などを考慮すると、10月から12月の参加は学業との両立が難しいと感じていることが予想される。【図 6】

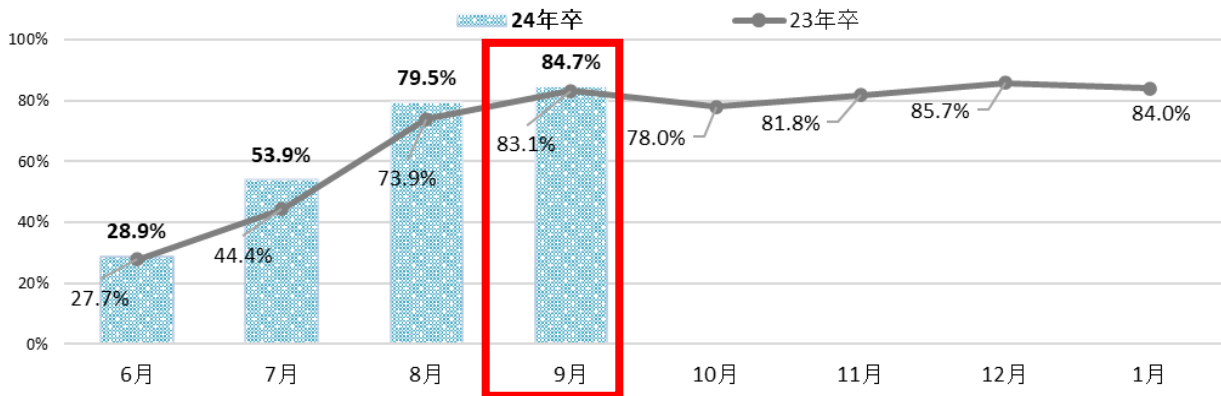
※「大学等における授業の実施方針等に関する調査の結果について」（文部科学省）

【調査担当者コメント】

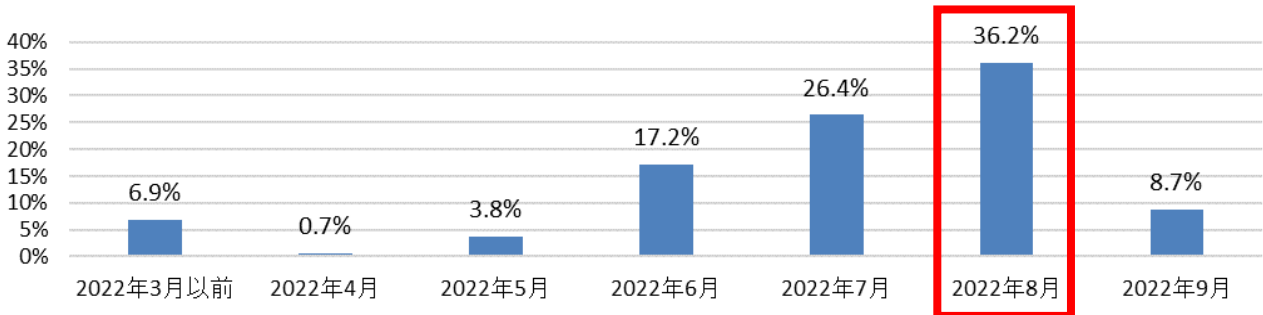
夏季休暇にインターンシップ・ワンデー仕事体験に参加した学生が増加し、累計での参加割合は84.7%となりました。9月までに参加した学生は、参加するタイミングとして適切だったと感じる一方で、参加するにあたって事前の準備が足りなかったと感じる割合が半数以上でした。ただ、この「足りない」と感じたことは決して悪いことではなく、そこにインターンシップ・ワンデー仕事体験に参加した意義があります。就業体験をしたり、他の就活生と交流したりして客観的に自分のことを見て、自身の強み・弱みに気づけたのではないのでしょうか。今後は、「足りない」と感じたことをどのように補うのか、大学内外で行われる次の学びに生かしていくことが大切だと思います。

キャリアリサーチラボ 主任研究員 東郷こずえ

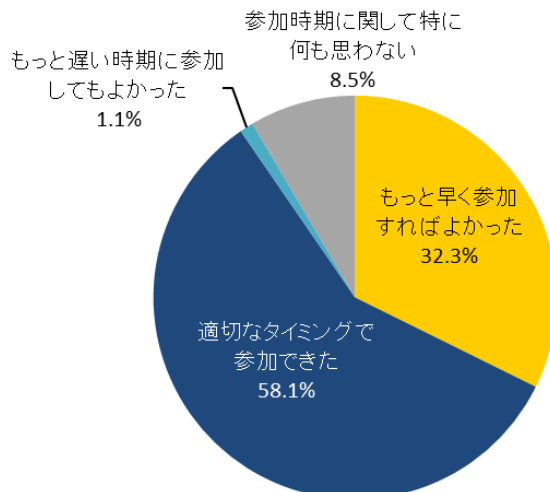
**【図1】 <これまでに（累計で）>
インターンシップ・ワンデー仕事体験に参加したことがある割合の推移**



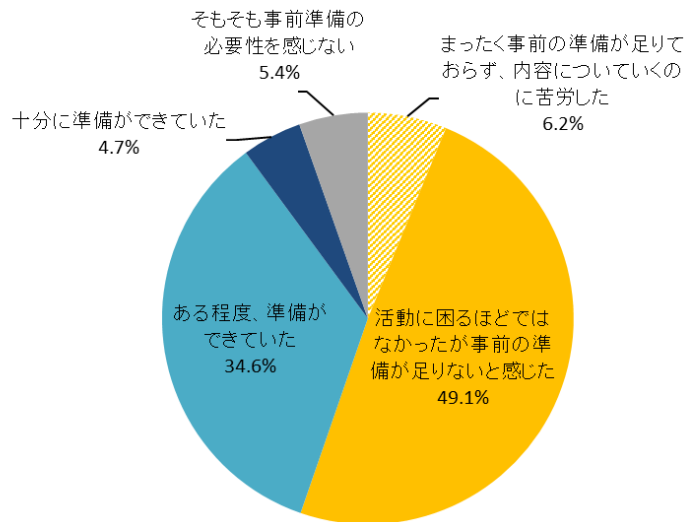
【図2】 インターンシップ・ワンデー仕事体験に初めて参加した時期



【図3】 9月までの時期にインターンシップ・ワンデー仕事体験に参加し、参加時期についてどのように感じたか



【図4】9月までにインターンシップ・ワンデー仕事体験に参加し、自分の準備状況についてどのように感じたか



【図5】自分の準備状況についてどのように感じたか、またその理由について

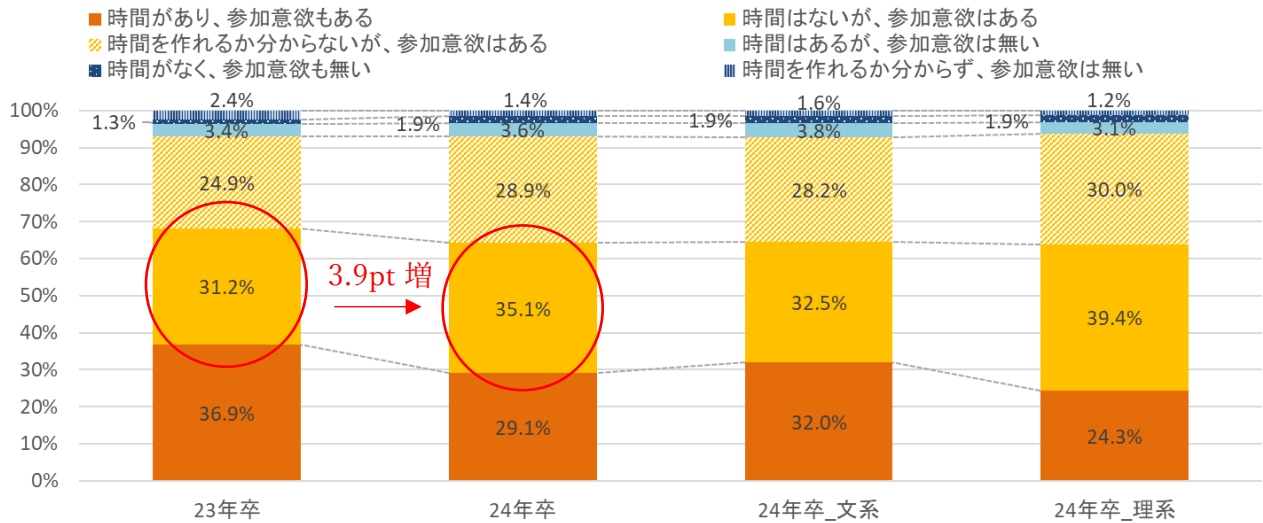
○まったく事前の準備が足りておらず、内容についていくのに苦労した

属性	エリア	内容
文系女子	東海	まず、 インターンを受ける業界の知識が足りていなかった と感じた。例えば金融業界など、今まで自分が全く関わってこなかった方面のインターンは、ついていくのに苦労した。またグループワークの際に、普段から積極的に自分の意見を伝えるなど、 議論の中で求められるコミュニケーションに慣れておく必要があった と感じた。
文系女子	関東	インターンシップを受ける前に、公式サイトを見て企業の考え方をあらかじめ理解しておくことはしたが、 グループワークで意見を積極的に述べるためには、その業界に関するトレンドや課題なども理解しておくべきだった と感じた。
理系女子	関東	エントリーシートの作成も適性検査も、WEB面接も全て初めて で、ついていくのが大変だった。また、慣れておらず、一社の選考を応募するのに結構な時間がかかり、 毎日選考の締め切りに追われていた 。

○活動に困るほどではなかったが事前の準備が足りないと感じた

属性	エリア	内容
文系女子	東海	必要な知識は、社員の方々が隔々まで説明してくださったため困るほどではなかったが、企業研究や業界研究をもう少し詳しく勉強しておくべきだったと感じた。 所々に出てくる専門用語や企業独自の仕組みなど、知っている前提で話を進める場面がいくつかあり、そのような場面で、少しでも知識をつけておくだけでインターンシップや企業説明会の質が大きく上がると思う 。専門的な知識を学ぶことは、今現在も、これから就職することになっても使える武器になるので、怠らず続けていきたい。
文系男子	関東	自分は文系の学生であったが、IT系の企業に興味があって参加した。その企業は文理不問で業界や会社に興味がある人は誰でも歓迎というスタンスを取っていたので内容自体を理解することには苦労しなかったが、就職活動の気構えや雰囲気というものを調べていなかったため、積極的に参加することができなかった。また、言葉使いも分からなかったため、発言に苦戦した。そのため、 社会人としてのマナーや就職活動に必要な最低限の知識を備えておくべきだ と思った。
理系男子	関西	最近のトレンドに関する理解、特にSDGsに関して、あまり詳細を知らないまま臨んでしまったため、製品に発展させる発言をすることがむずかかった 。周りも苦労していたが、自分が理解を深めることができれば、周りに伝え、そしてスムーズに作業をすすめることができたのではないかと思います。
理系女子	関西	グループワークの際、 専門的な用語が理解できなかった 。同グループの人に質問して幸い教えてもらえたため、内容についていくことはできた。しかし、周りに頼ってばかりではなく、ある程度、その業界での基本知識や、使用頻度が高い知識は自分で調べておくべきだと感じた。

【図6】授業期間にあたる10月～12月の時間的余裕と、
インターンシップ・ワンデー仕事体験への参加意欲



【調査概要】「マイナビ 2024年卒大学生インターンシップ・就職活動準備実態調査（9月）」

- 調査期間／2022年9月20日（火）～9月30日（金）
- 調査方法／マイナビ2024の会員に対するWEBアンケート
- 調査対象／2024年3月卒業見込みの全国の大学3年生、大学院1年生
- 調査機関／自社調べ
- 有効回答数／2,789名（文系男子496名 理系男子536名 文系女子1,178名 理系女子579名）
- ※調査結果は、端数四捨五入の都合により合計が100%にならない場合があります。

※調査結果の詳細は会社HPのニュースリリース（<https://www.mynavi.jp/news/>）からご確認ください。

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社マイナビ
キャリアリサーチラボ 主任研究員 東郷
Email : myrm@mynavi.jp

【当社に関するお問い合わせ先】

株式会社マイナビ
社長室 広報部 松田
Email : koho@mynavi.jp